



新撰菟玖波集 二

人  
秋冬賀  
哀傷  
意

渡國奇藏

伊地知文庫  
文庫20  
8  
2



伊地知氏書冊

新撰菟玖波集巻第五

兼連歌下

東海と云一貴日來ぬらんと言ふよ

宗初法師

こゝろ引かゝ乃こゝろひれ弱世々人

あるき開屋よりこゝろの年く

芳大納言雅親

丸泥月此こほまらひはるるやこ人



難波江くくくくくくくくくくくく

御製

河一海中は月もあひとやこり海らん  
又船十七の月ひくんに内裏よりこ  
の名号とりこよよきて侍一連歌よ  
あみあうへ海れかやちもあぐわりて

三品親王

えきんが火うすき月れ夕暮

五ノ二

あうね船海れあこそと歌を貴

宗熟法師

へうこといはるも月とうこ小尺そ  
らあはたしうらみまをすみはし

能阿法師

ぼりひありーれあ船くく乃月  
あふり乃志くく水ひくくなう

法隆行助

かふはにや何うつき月母う孫ありて  
は世きよのありはまうこおつあれて  
月すこのはあー河のみり  
やふもやえもやう海もううこ

権大納言実澄

ううーおれ娘川のすん夜々の月  
前軍白を傍遊よそ百納乃連歌う  
や志はまれのたのまうはよと

み三

うせふひううお月れ兼いふたて  
あはる<sup>あま</sup>なりのひとやなくらん

よとむとまうす

月やと敷を乃々あめりう露あけて  
常徳院贈太政大臣歌よそ百納乃連歌  
とふ人とう船つ遊乃ゆふくれ

後一位実子

ひとり見の月れひうりれあう夜よ

ひーれきとといわくわきん

忍擔法師

予る里れ蕪は世の月ふひとを福て  
物知りふがれ露乃ーたふー

権大傷部心紋

ゆるはとはきもきう月と海ううもこ

文の十四年五月廿五日内裏よて百拾  
れきんあうー

みり

つ整ち保り勢うー白ふたあうふ

前大納言教書

たすはこれ新ふ月ふまきあけて  
すみまひぬるうかかれうの秋

後花園院御製

るまにさす心わわははに月入て  
風の交とらくよ乃もやあうん

三品親王堯胤

不山れ月うおつるおつ遊

終さめいく黄れあまう乃す急

権信正日意

り月もろつひつらもや出乃あぐ

く勢けきみち乃行来去とくや

藤原のしひ

あけぬまのふ大をめくは秋津の月

降りき乃うせ乃あきや志くら

あつ

智蓋正印

山もこれびく雲とろき月おらそ

おあーわり連れ何うはまれそ

藤原正桂

やまれも夜月あひくさひうらん

りつれまふ来す急れ終と夜ぬらん

藤原京豊

力をーは月之何りあけ乃う

すはる男の木ぬきさうけのみ唐志めて

法眼專順

うき世れ月よえしーなるりめー

庭とりま野乃松世しーそ照く

宗初法師

月さへやえしー世れ女と志のあへん

まつきへりハあわあけあうす

菊白石大臣

何さうかの花も志りーハあへるものぞ  
ひもとくちとも中ー乃きぬく

法眼專順

志乃め唐らふ乃何さうかうつ強ひて  
なまこに海うふ志乃めれつ遊

存胤法師

物うかよさうりーうきこれ花とんぞ  
目とひもりそけあうまーれす志

智達法師

朝あか乃花れあこなるあともらて

さる乃きんうふ

しそあなもあまのこゝろのあや

宗長法師

あまのほるとこい野かのあまれり

あしもうけぬすのあまの

多々良法師

「五七」

聖まにぎと朝ハつらくあはれは

あまのあまのあまのあまの

宗長法師

野わきとてあまのあまのあまの

あまのあまのあまのあまの

宗長大臣

いあまのあまのあまのあまの

あまのあまのあまのあまの



光胤法親王

しりはてしお田に播くきねはくす  
うりはすみうの義山志のやま

藤原長泰

しりはてしお田に播くきねはくす  
うりはすみうの義山志のやま

宗初法師

まきしりはてしお田に播くきねはくす

三六

又うらそりく懸れらるる

玄清法師

河をれおも山田乃ひつちからり  
しりはてしお田に播くきねはくす

宗初法師

とすれから墨道れ木丁おねらひて  
まきしりはてしお田に播くきねはくす

宗初法師

月うららかに海を照らす秋の夜更けのむらさ  
かきつらきうらな月

青楓は際

秋風乃松小径はささゆりて

露をも幾葉れそよ風のうらそよき

前人納言雅親

小鳥とわらふ天くほらうら

月まらいつくえくや熱の影

みづ

御裳

しきれいふ海へのみつ乃姫の衣

あられそぬうき時をれゆあくれ

うらむとあうす

しそ水とたもとおろくほしきあかて

若きあけぬ小草花はくはくうらと

うらむらう

権大僧都心敬

まづふかしの巻乃さばま

法眼書頌

夕梅香ありうらな月小鴨あきて

うら梅うらぬあ乃く原に暮らめて

徳阿法師

ここのく月うら志きれらつ夢

まがのせうがうらうらうらうら

権大僧部心教

霧の海よりあふくはくみりつ

ひとりあふくあきわらひはく月をこえて

智蘆法師

うられきぬうらうらせきうらえき

あはれきぬうらうらせきうらえき

宗源法師

あまうらもあまうらうら風あうらあま

あまうらもあまうらうら風あうらあま

法印行脚

う舞や木敷れし後とうらん  
あゝ後もあれふ舞の山う舞

法眼字順

すみそふれゆふへもまゝすすうゆ衣  
思こらうれあひひるまをうけ道

法橋

あひはぬえひ乃まろしりか

不立

かじぬみはありまじはまん山は奥

系紙法眼

まきこみはれし舞乃一た店  
やうらちて月切のうたも夕山小

藤原利徳

まきの葉志らきむしとめれし舞  
つすのあも舞家やあくまきりしす

前大納言雅親

草ひびくもむきやこ乃秋う勢

たふおとつ雲れうらとひくらん

前尾大臣実

露とつふえらふ人あき草凡心不

草木とつす月乃一たつ花

忍指法師

雲ハ阿比 縁小かくき くらん

神代乃月もかく也さやまきさ

八

法眼專願

何まけとつ能くこさ ださ密什さ

きらよあけゆく志契のくうと記

法橋道我

物の夜れあくく乃や海にくもなとて

物ととむきさうりのなくくさ

多るき政弘船匠

書さくは月乃く海うは乃あきつる

月めくろの庭とらうらうらふなりー

智蓋法師

世美乃木すゑ流秋れぬうせ

つゝ海とりのほ月そともなふ

前左大臣

ぬんれ世美のく梅あを身あれぬん

か... ぬんれ

書

ふう... ねのふ

月とのス老れまゝあるなみで

後深光院御製

秋の終さあふノ物ふおりのひそ

あゝ海はくさうりなとあふ熟ん

法眼泰徳

山う海となりても秋ハなぬうあー

しそ本れ露をなすくくそそる

藤原基教朝臣

ふつあふもあふぬもうき悠る

ゆくはとまへも月そそやけき

乃安法師

なつむ終ハ露を心をとて照くて

是のうへに

悠るる

うら

聖徳法師

悠ハくあく悠乃以悠とくう悠ふ

ゆふへと人のうらみとやきん

一光法師

しきものとりひーそ海を秋れろ

あうめうめそや月もかあー

決眼泰本

いふ人れ人まもかこつあき乃そ  
いとくれてこう油はぬきひき

系初法所

いぐめらもうきせれぬふあひぬん  
いうなるこおあいきころらん

指大筆心後

じふ一登也 ころん ちんくじふん風

五ノ十五

形れ志傳 主 いたつを

系編法所

はこの系母じつさあかすは者あわて  
みす志くす娘てこく見もたゆる世ふ

平政形

くの系う娘あく娘れ山片と  
露のふさけもあつてすきひら

宵栢法所



以故あり極りさらり〜の山お終一  
秋と志々すまら遊れいり船と

系般法師

太山本をうけぬ小孝れ以終はさて  
るま乃ま〜いおもおら〜ん

系初法師

以故 一はれえま乃又目行  
たあ一世にいそと心は〜ん

権中初六也  
た〜と〜う〜えと遊れまよ〜系  
山わ〜ま〜すゆあ〜う〜は〜ら

辻橋蓋被

〜と〜いのますま〜とみ〜の遊うけて  
た〜れり〜り〜り〜れ松〜

藤原為續

夕日さす本れ海のりみちさうひと

月北うららとをあらぬうあーさ

入道親王道永

以落ふりき秋乃もみち兼御中事  
也と修くすまへとつらとくなけ

藤原雅俊の長

うけち原をおーきもみちの末なる  
二明十四年六月源氏頼朝かくりれ  
まことまて法入とわ連続お

五ノ七

お旅くとむらる末く乃ーたつ番

御裳

まみち葉のみくわぬりーく風を葉と  
葉とつふまのくはひーき夕暮るに  
風れおーら乃おら志并れら  
あちめれ月乃何くつきまらう

ふんひとあす

あきおろす、勢のもみち兼御中事

怒う獲さひーしけれさう然と

多々持世嗣后

露未蒸もらぬいと居ハ志づらそ

月より雨きく志をれとのうち

源元敷

このち候阿くー乃あらく秋あけて

く候日けりおる魚は志と都と

留さたり候み季の嵐乃以らうん

永年仙洞を侍ー連袂ふ

たひくーきハ麻北やーこり

從一世隆盛

青山世々小野乃山つせあきふけて

まきた地たふ候る白れ候う勢

法眼專順

男麻たかく世もまれおくや志くもり

手枝れもみちり以候ようらうり

くら志くれ志のこのまりお燃られて  
うてさこのめぬをとりとそさふ

正之位歌瑠

志くれある燃の末のけれやとらむ  
み<sup>舞</sup>進ハはひひーこのとほふるゆ

前家白を塙

燃はせま時ふれ雲く月乃さうー  
麻乃青とびくあく底やまうの

秋は英とあ霞のくれとや志くほうし  
回れそのひわらもほそくあーさ

前大僧正道興

秋さむきひ糸うしれ東乃びく志くれ  
らわえくく木こハひ海あき新う事

前大僧正 実

秋乃うくみれ月おーくれそ

きぬこのゝゑのちうきしとむし

禅盤法師

志くればあともハと成ちれぬの月

今おとる旅をひこしとてま

法京行脚

あつらきぬ露とある金たじりち

以旅終く山をばし又夕暮

紀光信

あつら

たくのなまこゝぬれ志くればとなわらひ

まひはくしと免侍志の志しとて

智盛法師

長月北段ぬ乃山や一なるは

ふひたる神うりおつるやまう旅

祝朝友松

かりれなく何うはな月お霧うちて

おほるなまこゝそ月おさうら

法眼尊順

頼り建たむくれやとくし焼くけそ  
えやハたへゆつ遊のたふを

前代大臣

志もほよひ風は世を染れ虫乃し志  
くろぬも乃むしと河りあま

後一位雅弘

阿くつきつ遊そ志もくろくわゆく

智益下

河一海うつ田上川れす急乃燃

山はもと世くく海もくろみ

持大納言実澄

志海くくれ志も染乃月小燃うけそ

志く海く雲とをく海秋く染

前大納言重忠

長厚も海く河り釣乃けふけく

あつちもはらひ〜夕ぐれのそ〜

多〜言致私約信

夜那くの月まらちと城小燈ふけ〜  
ふかもらわとみせぬおうか

吉道法師

月かろ〜つらつら〜はろくふ志入〜  
何〜ま〜れみおとけ〜く〜

京孝法師

大徳

ひうわうひり〜身いよあ〜

一三歌

落〜う〜ぬ何〜や書〜むら〜  
くれぬら〜落〜り〜かり〜

権大信都心殿

霧志ろまき志ぬれ葉やま乃秋あけて  
虎乃〜う〜やと〜け〜ら〜わあ〜

宗長法師

尾上此まろもあきハあけゆく

たふもふ養こすかを乃はきしき

智盛法師

まきの屋をすみうきまろり杖くれて

うひかろーや愛のうらいつ終

戸部十郎

行しめくくう

本まゆるなとみきう...のち

八ノ三

微くれぬ月北忍意...のん

サー北音

たき牛

二科の矢常取也

月北の路の建野は杖あうやなりて

たふあうさそつ遊乃何と地ふ

前大僧正義運

嵐ふくれ乃くまろり燈く連て

ろくあうまいとうき杖れたらぬらん



宗祇法師

くふどかきもれなる月のくれ

新撰菟玖波集卷第三

冬連歌

をくりむりこきしれし人の心

前代大臣

秋はせきほしれすもよあゆりきこ

めくわのよまると娘との花となくこ

御製

神無月とやまこ志くはらん

このころ地り書居のきり後

三品親王

ひらきや月ひりりくも志くはらん  
うらひさくこハク勢もよとよす

源政歸朝臣

あゝ海ふた町前かき云く  
ちりーわ まゝい まゝい

系文



ぬら〜き〜にの〜は〜は〜ん

せまりと〜い〜わ〜ん

法隆寺

松さそふと成山もとのゆふ志くれ

あふ人いふふらのやまこえ

宗長法師

りれぬまの墨道れれと乃夕時雨

定あ能あれゆくす急乃ゆらあらん

系物法師

唐イ

山を志くれば雲乃一たみら  
雲あれた月乃何うつき乃々

系物法師

比よ海々雨之風もゆめさめて  
うそふくひそぬあけり袖

権六郎敬心

あぐりてやばき一ふらひ志くはらん

六三

雲うしんく一と成させまよはん

友原長清

スやこゆはいつく乃ゆき乃志くはらん  
あさう志くはる志もれあゆ草

前大信正塔守

けこみまはを来れ系法師うそひて  
うくう勢ううううそと一て

け眼当順

雲はあつちのちやらのこの志んはらん  
なともわいしあもあしあしあし  
歌はせれおらんうらんうらんむこえて  
うきあふてやねのひそめらん

未伴法除

つらそりりちすむ山乃下のみら  
あゆまふ山ハ海くく徳しけい

お中 所そ縁完

すみりあしはすおらんささるる後  
あふさうや用れぬらみら物さし

式律の邦高親王

音羽乃やぬれ木葉らはる後  
まげいあし彼乃をうそそそあし

孝徳院贈太政大臣

くも乃あしれうき葉ふり後さそそ  
そそぬあくれも袖ぬしきう

前関白を焼

夏こそふれ糸と来けハこれこそ

何そあまやことおりふ山は

捨入僧部心致

あゝ思ふれおつるまもふ糸さあ

うとつるまも解そあき

智閑法師

ふみこらぬゆさちうささかやとさつそ

六ノ又

つまきやぬ老れ絶のを

永孝法師

独ぬらぬふこ木葉れも秋葉せう

こゝききもさすをみよや秋の月

よこ人志す

もやこゝれ志の山乃以か

木葉母とぬる山乃ゆつ

源政直

水山世ささうふ乃ふるみちら草うまて  
袖ふくう勢乃をとをきしひ

神益政

冬うまの志もやさあり〜花す〜き  
こあ〜うあ〜この松う勢れ〜志

宗祇法師

こ〜り〜れ一む〜す〜未あ〜あ〜野〜  
又明す〜年十一月廿五日内裏〜て

百約れ連歌〜

水山世ささうふ乃ふるみちら草うまて

神祇伯忠家

つぎ野乃名む〜れまぬ〜うん  
山のひのま〜もゆるり〜草

御襲

冬うまの志もやさあり〜花す〜き  
こあ〜うあ〜この松う勢れ〜志

前大御云教書

くれくら家新れ志こ草う山も建て

ふのむもあふや花<sup>老イ</sup>流り守志

藤原素正

冬くま乃とり志した草去まらて

雲と見ええれまのれむこも

権律師隆胤

こむふにようれくるゆー乃むーく

ゆわみーまーれふと乃一ふ

法橋道教

たふらくおまこ朝志も乃おらやして

庭火とさきてうたふさうきん

法不行助

三十一音も八彦乃志もれさゆる葉り

ぬる寺ハ松の戸くく人もな

道真法師

心持の御と書しつゝはらへ  
ちらそりうしんひくまふる地

源頼朝

ほくそんそとやあふはとぬく家頼子  
あはれをうすしこげ乃させし

宗初法師

しきたへ乃海くのあるを頼こえて  
あまはう勢乃ら世きあらん

勾当内侍

ねらうき松林養志のく頼あわて  
うふかろれを火うく

前左大臣

頼らむし一勢やあけしよなりぬしん  
あまはくろを孫ぬしあけをり

十務院入道前内大臣

頼あまひあし能らは勢はくく下



ゆふへ北雨の竹とさうらあ

素伊江原

つら乃もふ何し飛ぬさよのこけぬん

は海の上をそら海もりうまぬ

源政珣抄

ゆふらああしき松原う勢ふきて

こころしそよく山北したた

若菜江原

志の義ふうし花わし進けう 二地志

鳥羽山し遠く雲そつとあけ

能阿江原

あさあうわ田北月うしな城はて

木葉北のち乃のけそうけさる

くまの人志うす

冬ううとむのひし月ふらよ志くれ

ふれしあふ世をらびうし海うせめせ

十梅院入道前内大臣

月より志くゆへつき入建仁

つらむむ訂乃雪ふ以なやみ

従一位兼子

くくむ月もあふ海あ力兼

うわ縁れとあうとけておぬ

源重經朝

案より入る月入い皇乃此

六十

何く乃をよこまの

撞大僧部者

空より月ふかき度みら

松すきたうきうけ乃ら

多くきぬぬ

ぬきあのお山此

ういものあ木乃

宗初法師

新く是れ世を流るるはく月はく  
ふく志まらうはく海とけし梅うえ

能河法

さゆふこの氣八月うけさうあけて  
あふ愛もねと流きあ、ぬ流乃う勢

菅原を教

あくくくふあれ月のはせ  
ふりせらむくふあうく雲う

六ノ十二

お八納言

いりりううへれは物れうは  
うみのうへあると成やまはり

法眼

ゆきとく入きつあはらう雪うわて  
あふけみあふるやあくひん花あふん

法橋

あふりあふくあふあふのあふ

葉くはみちれはくく山はと

源友興

くろきりし志持うん乃あてい

山見の形おく水のあはらひ

くま人あす

木葉乃う魚乃うす雲れ少は

あつめしこひーさこれをらう

まぬ息入道前田不説

ひーうーはくあていーたるあおむてい

との飛たうわとまりをあわき口

法眼智順

くち花母しあまは雲とくちうらひ

くちこあていーあていーあていー

源持知

月うゆあていあまはあまはあてい

くまをれう魚とあていあてい

権大膳部心敬

くや野は月まはらとちかきりれて  
かつらゆきこの月うけのとも

権大膳部月白

夷北海のゆき乃ほもるやまれば  
まの秋にあま乃的かの月れ秋

藤原為續

ゆきのほ雪うらむふと秋や海

またしてはまのふ山れうけぬ  
法眼專順

ゆきれうなるみほ乃びく雲  
たちちあをとをわりの冬は日

権大納言教具

雲ぬりまきまのそ海山のらたえて  
そはゆきのほくははるわ

系初法下

雲のしほりうらむき此寺乃慈をうりて  
雲のしほりうらむき此寺乃慈をうりて

秀友は

志く鳥の鳥羽回を敷うふゆきりて  
竹むくくうらみちそりゆけき

蓋光法師

船かよふうらむき此あさけゆきとまき  
河あえりうらむき此あさけゆきとまき

日成法師

は河しほりうらむき此あさけゆきとまき  
たきこころ人やる上りうらむきとまき

源経行

かみこころしほりうらむき此あさけゆきとまき  
うらむき此あさけゆきとまき

正信法師

山みりの書りしすちたえりて

らきりし事のみともいふ

前大位 実

うていふとりぬやい きり

たふくむらいそあひくむい

三品親王

まらこちのうらひもたぬぬゆき乃月お

たう月へあははたれお終

三澄法師

ゆきもあはるやひにちもあひ一

ゆきもあはるやひにちもあひ一

贈後三位教弘

ゆきもあはるやひにちもあひ

ゆきもあはるやひにちもあひ

宗初法師

ゆきもあはるやひにちもあひ

ゆきもあはるやひにちもあひ

法眼專頌

はらの一と八何とあは山にこの物の子  
うた我らるる乃人此は、まのー

宗初法師

ゆきふうーうら子やのらんみまはは  
ねとちくまうーあはふじみま

智盛法師

ゆきおまは竹乃下以かふーまひて

人よ入るめ度かふーかあーさ

平長恒

あつこもあまやあかられ北草乃度  
あつーわうあまあまーま

前大納言雅親

ゆきこれあまゆきあまはと、い冬こそわ  
あつらとハ木葉らあふとるたて

中原師範物語



おへまよらうおのきぬききこる

志津うをみぢをこく業乃<sup>身</sup>あ城は世とん

軍自右大臣

あゆのよ海ぬそあいつあ一貴

月おめそはくこれあららん

宵栢泣降

振乃とれ音う人さゆ赤冬乃黄う

人をとらぶうう一<sup>身</sup>あはあこ

あうまあぬあ物居

あわいあこはまのれひ<sup>身</sup>きよみははて

あにらまうらまう<sup>身</sup>はうあ

智盛法師

あまき日は野道れ小鳥と人あま

八月うけのな<sup>身</sup>らめなるう

友原文躬

あまあれあ<sup>身</sup>一乃海とらうあねなて

何と袖北山北一たみち

太政大臣

けりとりハ夕日乃以流はて

音羽乃山北本義ら海了流

大藏卿

こむけさる冬丸おくなる瀬おらて

密わら海まらうの松う

源の江守

六

らとりなく入江北お

そくとをとりとえしうささ女孫

軍白右大臣

ゆるあえれ何のそ子鳥あ記うら

明應三年十一月ひらと連次ハ中

をわみらさ母一まう進乃庭

権大納言

月ううら友はれをのあふけて

柔とぬく池乃水のとらうひて

平貞孝の御后

木すゑ乃をーれ床やれせけき

こゝひぬく<sup>ウイ</sup>らつ志江れれと

法眼專順

乃つとわ乃つうひくお被ぬなと母と

れとへの水乃おらこち乃と

權六信邦の歌

つりそなぐ雪乃これ氷やにけぬと

人うのゆ成ふぬと海なわきり

多うき政弘の后

わうとるれ孫少る海もあき夜はつと

うくうとみとおりあうれ國

宗叡法師

かさひのうづはくしれとこえは母とまお小

阿なれゆもま業杉とたく夕海峯

権大僧都心敬

すみうる希れうるる所乃山

松本と数々まをあまことに分りて

法下仍物

あうすすんをいふ乃と

あうすすんをいふ乃と

権大僧都心敬

いふすすんをいふ乃と

六十一

いふすすんをいふ乃と

権大僧都心敬

いふすすんをいふ乃と

いふすすんをいふ乃と

権大僧都心敬

いふすすんをいふ乃と

いふすすんをいふ乃と

権大僧都心敬

二ノキキ... 後、業のゆるりきだう者

人あつた

考をゆ... められに捕さるて

う... あつれうす...

ま... 政私物

み... をおもへて又...

お... びあも光...

三ノ...

前... 色...

と... び...

新撰菴次波集卷第七

賀連秋

花はく松を以て見はくんとしよふ母

式部卿邦高親王

ことの葉小りす急なる一子代はま  
うらうの世を云をみとわはまらたう一  
りふいとまふ見ゆわ一ふ

前代大臣女

うふとらとせれりすあれとふ  
あふよとひとあひつとめや

三品親王

いふあふめし〜  
5のいふあふめし〜

いふ〜す

いふあふめし〜  
いふあふめし〜

御製

あふあふめし〜  
あふあふめし〜  
あふあふめし〜  
あふあふめし〜

権大納言実隆

あふあふめし〜  
あふあふめし〜

宗祇法師

さへくはりのを何より君の代り  
あつてもあつてもこれあり

多々高政弘朝臣

君のよふらぬ園はとてあつて  
お城ちへはぬとて人乃くめ

法眼專順

園屋はくなるハいとされらうとて

むうにめくはいゑくは風

うへうとくとほまのうす忍て

うはひうあつたまれか

式部卿貞常親王

い海は世もひーその海うりうりめや

きと居とのあひうあふとれ

御製

うせみえてうけれ小草乃あひくせお



はくみゆも何れうり家やちしるはん

後姫君寺入道前田曾太政大臣

きおりのあはれあはれいこれ清代

い乃ゆた家しよあ魚家らうせざら

法橋道哉

君う代いもけし舞う勢をわさまたく

みむらふ被とそいつをぬたすのを

能阿法師

まきりよのうすあう演れまゐりこら

なれまゆと何さゆあそふせ

藤原雅俊

君うよふあきわをさうすけうへきえ

しとらうぬあそけうへいひぬる

平貞宗

みちくみたうしき法代おむまはれ

ひらくちうはめつめはつみえり

紀則宗

ちづらある時ハ  
たむけするま  
神を海

宗初法師

のちの法とき  
こえん山  
す急と  
あつ建久

源盛歸

昔う代ハ  
長傷連歎

肉大臣

あまんと  
又の十八年  
草下

御製

あつて野やこれもさうと袖ぬきて

永享五年四月仙洞より百約に連次小  
まきぬねのひやぬれたはくくとゆるお

後小松院御製

くく運を落つて運なり一をれは糸  
はと一乃神世月ふあんかくれあり一  
まゝ一わろ

わろまゝ一うのとなまゝこちけり

後智是院入道前関白大臣大臣

老いひとりをくれさたふら老れとも

つらもなかくあえこのうら小腐のま

権大僧部目与

おれむとあひあきさう勢乃らま

まよといひ一まろそいりあま

権大僧部心敬

らゆうちに入花をうらふおとんそ  
ころふれまやふあゝ海そあれ

宗隆法師

え一人の花よりわされたあまのせう  
わりよの祭そいとくこふー舞

源持知

ちきりーいさきうろそくれ月とそそ  
かーあかひんすくれちあうせ

宗般法師

ゆたあと城とくハ月乃そ屋とそとそ  
ほのよハわつるあそたあわをり

多々言政弘法師

き代ま世といれりー人そあふにて  
慈照院入道贈大政大臣とらうし<sup>ニイ</sup>行ゆ  
とふみなんあわけり  
あえこのみつお男とあまけめん

法橋遺教

いひえおんあけくもくしうのいけれ下

いひえおんあけくもくしうのいけれ下

ちうんちう

いひえおんあけくもくしうのいけれ下

いひえおんあけくもくしうのいけれ下

いひえおんあけくもくしうのいけれ下

いひえおんあけくもくしうのいけれ下

業れをあげてありめやゆそ

系伴法師

いひえおんあけくもくしうのいけれ下

いひえおんあけくもくしうのいけれ下

玄清法師

いひえおんあけくもくしうのいけれ下

いひえおんあけくもくしうのいけれ下

檀大僧都心教

ふれあともりすゑしめむあこやとて  
きよ貴若れこそあてありまかた  
わすれぬハはぬおあきせおあつりて  
たのひりなふれ志な成りくせん

法眼紹永

つすくくうむじをちあしあつれも  
わすれぬハはつりくめりあひもあこ

権大信部心敬

七九

あつりんとくあ野へ乃をいあま  
こえぬる山やうそとあるらん  
人のわりすくあは出るみほのて  
きこのとほをも老ハたのまほ

宗伴法師

さたたちしひとりくれうすうひて  
はまよくあつりあつれありあつり

青栢法師

わらゆへくしつしむれはしつぬんをん  
とせむつらうせんさうそふし舞

宗祇法師

世れ中りいらつしうされとらひくそ

何れ世れ世も乃舞う舞うあしんそ

贈送之位 敬弘

ありよもかきしあきむとれあも

あふもあきむあみちらひくくなら

宗祇法師

のちれ世ハくひたち舞人まな

くふしあやしあいの平山うの

法眼泰徳

あつすくあえしよの人もわりるはし

あもあしとうあしあきとねひひま

宗祇法師

こりたああれとあはらう地する

徳わひぬいのちもなふりあうゝぬん

宗長法師

わつじ—あとおとくはあこゆあ

何あれちうきさる夕くれれ心路

宗慈法師

そきとみよ野りく乃つ世そみの行来

ちく—きそな成あれと志くふ

法眼専順

うとつり—人ハまはあぐ草下り

志り—成らふまわ下り

多々言政弘約長

わ—ちうぬあをれ成りよはけらありて

みちりのふなる若むじけり

法眼専順

あるはるも世のよきまの心とらひて

たふれまう—きんあもけりまうあ



智度法師

ふくむむとうるらぬ人を忍ぶるやあて  
後乃世とわりのひれ玉徳をくよる人て  
心徳とのまはさく海にけいあ

新撰鹿秋波集卷第八

恋連歌上

い乃さちまひり神よこしりあしとゆるる

三品新五

あめつらとりわさあくよりれいひれえら

なげくあひひよあめはらもー飛

捨大僧部心教

くふとあり世とあるよりれいひもら

手乃乃連次中  
のあるみちそひとらふもの

系流法原

いせせ原よりい海よりぬんをあ  
わりあつ海しううをれうあ流

法京の物

うまとなくみしとむりひれりあま  
んあまうげハなふいすまん

法眼禅譲

い海にこあひうあはる日もつ  
たあまこころなくやせこれ孫

従一位教忠

い思ひえらうあめる数うせう  
はくこれるもけいひとわ孫

御襲

あらまぬくうやあめうあひえうわ

夕つ遊ふうきりちりれすふくまて

後花園院御裳

なふをう志のふ草子れ若もく

いりまえとくうはまふくはらん

控活正目意

志のふ表のたうかもはくくふけえて

り純とこくくいあくこくなん

権大内侍心敬

ちりひまひりうを後う巻て志のふ表ふ

きううあさわいうすまひとくま

系初信師

月とうし志おひかふひれ夜をのき

あやめとんぐぬ巻れゆふくれ

智益法師

月と時としくハなとこれあやめく

男とうくむも若くやうらん

桑嶽基總

ひひぬおひとーるひあ見たるそ

延徳二年は八月廿五日内裏より石筋に  
連飲ふくあーるあうりもすーる

控大納言兼登

りはこんともゆふりひれたくはあ

法製

う、海つゝ能と志のふまわあこ

七十五

ふまわはてんおりのあはあ

式部卿兼親王

徳ーりらと志のぬふくすくやなり

うちけきおとやと能と志とけく

法橋道叔

あーりひとーるあひあすあそ

あえーあとりぬたられそあ

法眼專順

志のふれとちく流れちるといふくま  
えさのいおもひそふれぬさういひ

智盛法師

あまの乃とんいうううううううう  
えそいあもたそせふもまううう

源持知

あまのうらたううううううううう  
そけらうは海のうううううううう

みうりーあううううううううう  
後大納言実澄

このめぬくれうううううううう

勾当内侍

うかりける人れちく流れまううう  
くかあーふこあうううううううう

お大僧正通真

うううぬんううううううううう

と家つふう通海みちやうつらん

宗長法師

うらぬとむらふらぬありん 兼てあつて  
兼てあつてむらふらぬありん

桂大僧都心敬

あひまひりハ馬吟月おちて  
こやとぬ人うつらうつてまん

法京の物

五十七

いとうふともりてうらみはみはくが  
あつたぬちのをうへあつて

宗伴法師

いもうらとけハあえこのさだまつて  
あつたぬちそのふらぬさけ袖

宗初法師

けりひまひゆきとも人のあつたぬあつ  
いとうふともりてうらみはみはくが

まゝ書政松能臣

屋ととく人城へぬくくうき中一あ  
はくむくう人やうひとさるらん

宗般法師

ぶつ孫ゆくくう流れ枝のちと流るー

こーとていりぬそをーへ今わけあ

法眼專順

くろぬやと君う屋ととくあくはらん

七六

あましくいなふとくかともせん

玄澄法師

おかくやふみろめらうとだのこきん

うく見のふ人やうの種を海さるらん

權大信都心致

おりのひすつとこい雨はゆあくれ

なふをたよかに人とまららん

毎く書政松能臣

たれりーの思ひつらもぬれ  
いともあつむる喜そけひりー

後一位皇子

たれめても空の道ぬ花れ夕つ逢る  
人さひとまららんものそられゆふへ

后之孫入道前太大臣

たれやゆらんもあひたしふき

あはれをれ新のさひりきあめれと

後醍醐寺入道前関白太政大臣

たれとれはなそれはつらん

うらみくちれふひたなひり

之品親王

あそとつふ人ありあはれゆふぬれ

たれくともあひりひちこめす

前関白 在清

あそとつふ人ありあはれゆふぬれ



おひひりすよめはまゝい

惟宗氏私

人まらてう地を祿ぬ我れ郭云

人こころハハりわりとも待てこ

多々高政私物臣

ふぬ夕々連れ屋ま入る月

文の十六年三月八日あまて一杉屋

連歎ふ うらみもまゝ家人并燕一

慈照院入道贈太政大臣

あめはくまのよひはは月をえて

つ連ふうすハたふさうらん

式部卿高親王

ありのれ月出るまてまらまひて

ぬこころおハれりひもつ連ぬゆふ雲ふ

源政春

さうくまのハ月やうらん

くく海一があくゆあくれ乃雨

能阿法師

まきりのと出ハとひー東岸九月  
雲うく舞う月いさきり

宗初法師

舞うけぬひつまき人れまこるん  
たふくをわぬおもひ縁とー一於

藤原雅俊約臣

つらさたれまら舞うけりり猫ぬきて  
わきうあはれ人れりりら

たつる海さうわ

海さうわぬけりまきれまらほとせ  
いり孫のまのまもさめす

権大後部心敬

とーちかここのあーなまほちふけく  
かなーやるとまふこふす

太政大臣

うきうき待夜れとこみかよふらん  
くき海よりきいりわうとめれうき

法眼泰徳

たれむあやうれうく人の深おん  
んれとよぞやひとれまらん

太禪法師

我うこれらありむあくぬくあよふ

三十三

子の連歌れはふあふをいひいひ

あれも

青栢法師

このめすはとひゆうんあをまらふけ  
うみまたこれいけるうひあき

常信法親王

好むおなれくはあもあうぬ人ほちて  
月とう勢とみゆめをむらりて

前太大臣

ふんぼまを人まき得兼せれ戸をらて  
こつあまの事をあつたくれ

桂大僧部目与

雲あをよひの庭海もくち海ちまひて

あま—きんあはれある夕夜まき

宗長法師

かりひつりやとまもさうあ—

おんくそむれ孫をもちこしたん

三十三

宗初法師

あまきんまらうとく月いあて

こつあまの事をあつたくれ

源友真

に、清ふ月ハこく人ぬあまあて

まのあつたくれとあま

前左大臣 兼

突—を海うとあれハうあま

徳川人ありぬらう務とそが係

入道前右大臣

男と一してまろとや人母のひつらん  
又の十四年三月あるそ百納れ連歌小  
むまひり地まりのちをます海ふ

慈照院入道贈太政大臣

つと一しられ結事ハた張たそ一世  
人とるめよつらううわかん

よえん人志す

おがよとのまろそそ年と梅るもりし

かり〜とろとあひかりあや

赤碓法師

うし入すよ神なる夜をのそ〜みめ  
こねあまの〜ひしお似たる身も〜

法眼專順

海清う〜あけて雲そわらあ

おはなれおはなれおはなれおはなれ

おはなれおはなれおはなれおはなれ

おはなれおはなれおはなれおはなれ

おはなれおはなれおはなれおはなれ

三品親王

おはなれおはなれおはなれおはなれ

おはなれおはなれおはなれおはなれ

隆伸 納言 政 殿

おはなれおはなれおはなれおはなれ

おはなれおはなれおはなれおはなれ

常徳院 贈 太政大臣

おはなれおはなれおはなれおはなれ

おはなれおはなれおはなれおはなれ

大藏 卿 経 兼

おはなれおはなれおはなれおはなれ

おはなれおはなれおはなれおはなれ

此れまゝのま

いゝとてこれありとせする

ちとぬつくりれいといとせする

肉大臣

とて小きくあれはつくりつくり

つくり連致は申す あこれまゝとせする

まこれいせ 控大納言寛澄

やうくをぬんり 高とせこれいせ

おのいせいはいせはたつと

宗伸法師

いゝ物をいせしてせあてていせ

いゝ物とせうためいもそのまゝ

控傷正祐致

とてゆいれなひくまゝとやい乃る

思ふとてぬんりいゝめ

まゝ高政弘相臣

と記れ世おわきやつとなくすまらぬん  
さりぬく候なくじうふ月ふ

奉儀主信

たまさうれ人海ちえさう徳は兼り  
文の十四年六月うんし物あさり此  
ふとさよて法ひとら連歎ふる魚いなく  
も志さふ別語 御製  
後座りふふあふ事とあさうらうて

物りあうと法そと成くはきわす

ふかん人志さす

かりしれ故の世まえとくさう兼ふ  
あけゆく兼まれく候く候し

権大信部心敬

くはまの月と海くくれあしにんて  
まさうひ出ぬうとあうはま

平章棟



まねお乃とむむらちまられみしうふ  
うね—きふうへ袖ハぬき

素純は昨

うちとくはゆきまわや—らよぬら  
ううぬれりてねとぬり勢

藤原心存

まねおあふきやれ中ハのまらて思  
ゆのうふみえ—おもりのあそ

七ノ廿八

推律作志系

はくまんとあま—なくおさとして  
おりのたしよの人みろり

系長法師

はまなくハやま—とくハとよもうし  
うひみうあまはとつそくなひあね

後三佐義敏

たうあふさうれとりは音ハう—

ほまろーあふ丸又以、なん

宗義法師

「うせーハ行は流まよとふこりよそ  
葉のまふかえはあひひかふしと

宗義法師

海とせーうーやりのまよなりおらん  
るこーとせー海よりとれそ

法橋道叔

たけははるきりんをききよして  
いっけふときうう地もまのまん

藤原正徳

うきかーをそてふせめてたけははるき  
はもあちきなくあこにおらけり

多々良の弘和良

ふりりんをききよしてあひひかふしと  
つせえおこしとぬうあまうま地

後一位皇子

あふきとそ又つらうけとぎくぬり

おきゆく袖うへぬむありあひ

非弥伯忠室

うきほ原りうりうき地うへ録をふんて

ちうへいあそそのやまこかたる

源の者

あふきそゆきあふきハわうあふき

七十一

人れいうくもちとりりわそ

藤原忠總

あふきくもあけゆくうきふ志うふ那よ

えたくうゆいうへらく神心

青栢法師

あふき川北をうきへはふあふきぬくあ

おきそみううきむねあふきあふき

宗仰法師

心通つゝきとふこのおひれきぬくく  
あゝあちきりひなふにたとへん世

法眼泰延

何さうかもうつ流りぬまの貴ぬくくふ  
文酌十六年八月十八日英内裏より石清  
水社より世路ける連袂法中ふ  
月をくくく云れをちかひ

三品親王

あゝあちきりひなふにたとへん世

権大僧部心敬

月そときくくくくくくくくくく  
ひとあたいかひたすまられく勢  
金座乗ふんおそくもくくくく  
くめときてもなふくくくく  
あつをも人を志くぬ衣くく  
まがまうさあさあうつきお神

道空法師

こゝをれひよもろあれぬたすくよ  
ひけいたもとおあえとあらをり

権大僧都目録

よこ雲にりあきりーとものひひて  
まごぬるまごふのこほはりこし

智達法師

しつこあふ屋のらよ厚そいうくあよ

七ノ三

ワの連ゆく袖もや露れ志く存らん  
袖ふ月れけりとうさー

御製

英少くも志おひて出るわり連地よ  
人よもあなはあてそお運ける  
あなくもあなみのこもあなこも  
あなあな事もりつとあなまん

入道前右大臣

方外阿婆一教のちひなくさぬて  
あまはかうんさとれんもな

法橋道叔

ひとりほく福をれあさき乃物ねひ  
うきふらのものや神をぬく

法眼尊順

のられくれまでむといおもり

